

平成26年度子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

陶芸体験会 ～備前焼にチャレンジしてみよう～

平成26年7月26日(土)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

作陶(備前焼)体験をとおして豊かな感受性と創造性を培うとともに、岡山県の伝統文化にふれることを目的とする。

2. 事業の概要

(1) 日程

平成26年7月26日(土)

(2) 募集人員

30名 幼児・児童・生徒とその家族

(3) 参加者

30名 9家族

(4) 講師

吉備高原学園高等学校 非常勤講師 大石橋 宏樹氏
非常勤講師 片山 康之氏

(5) 共催 学校法人 吉備高原学園 吉備高原学園高等学校

(6) 企画・運営のポイント

昨年度と同様、陶芸の固定概念を崩し独創的な作品が作れるように、午前中のアクティビティにアイスブレイク・思考活動を取り入れた。

参加者の中にあるデザインイメージを広げられるように思考活動の内容・流れを再考した。

また、小学4年生以上の児童生徒の作品については、後日、備前市で行われた「第5回子ども備前焼作品展」へ出展することも視野に入れた企画とした。

《午前中》「アイスブレイク」「思考活動」

内容： 思考活動をとおして、思い込みや固定概念が各自の創造性を抑制していることを体験から感じ、それを崩したときの感情の変化を体験してもらえようとした。

講師： 国立吉備青少年自然の家職員

《午後》「陶芸教室」

内容： 吉備高原学園高等学校へ移動し、講師から陶芸についての基本指導を受け作陶に取り組んだ。

3. 活動の内容等

(1) 日程等

7 / 26 (土)	
時程	活 動
9:30	受付
10:00	開会式
10:30	アイスブレイク・思考活動
12:00	昼食
13:00	陶芸教室 (吉備高原学園高等学校)
16:00	終了
16:30	閉会式
16:45	解散

(2) 活動の様子

(午前中)



アイスブレイク



思考活動の様子

(午後)



作陶に取り組む様子



作陶に取り組む様子 (全体)

4. 成果・課題

(1) 午前中の活動では、家族間でのふれあいが時間の進行とともに深められ、課題解決の場面では、互いの意見を出し合いながら課題解決活動を進めていた。また、午後からは午前中の活動を生かし、岡山県の伝統文化である備前焼の作陶を行い、親子間のふれあいに加えて、参加者間でのふれあう機会を提供することができた。備前焼の陶芸体験から多くの体験の場面を醸し出すことができた。

昨年度が30名募集で6家族17名参加だったが、今年度は県北にも広報を行ったり、要項にQRコードを取り入れたりして、申し込みを簡略化した結果、広報開始1週間で定員に達した。参加者数は定員と同数の9家族30名となった。

(2) 参加者の声（抜粋）

- ・事業全体に対する満足度・・・・・・・・・・100%
- ・事業のプログラムに対する満足度・・・・100%
- ・事業の運営に対する満足度・・・・・・・・100%
- ・職員の指導・助言に対する満足度・・・・100%

アンケートには「普段集中力がなく、ふらふらするのですが、楽しかったのか集中して取り組んでいました。」「交流の場や新しい発想があってよかった。」などの意見をいただいた。また、作陶については、「初めて陶芸をしたのですが、とても楽しそうにしていました」「普段集中力がない子たちですが、長時間集中して作陶していました。」「思い描いたとおりのものを作るのは難しかったが、それはそれでいい作品ができた。」などの意見をいただいた。

「第5回子ども備前焼作品展」に10品出展し、入選3作品、優秀賞1作品、そして、1作品は作品展での最上位の賞である「県知事賞」を受賞した。参加者は後日、「備前焼まつり」で行われた授賞式に参加し、親子で受賞を喜び、備前焼への関心をより深めたようだった。（総出品数は約500作品）

(3) 課題

作陶においてさらなる独創性を引き出せるような思考活動の内容や質を高めたい。また、今回は早々に定員に達したので、定員を増やして実施することが可能か検討したい。

担当：事業推進係員 黒田雅秀